

〔口語訳〕

晋の羊祜は字を叔子といい、泰山南城の人である。代々吏となり二千石の郡主であった。祜に至るまで九代すべて清廉の徳ありとして知られていた。(中略)

祜は博学で文章も上手であった。魏の高貴郷公の時に、公車に召され、中書侍郎(中書省の屬官)になった。晋の武帝は呉を滅ぼす志を抱いていた。そこで彼に荊州の諸軍の事を統括させ、出陣して南夏を鎮定させた。次第に昇進して征南大將軍南域侯にまで至った。没して大傅(天子の教育係)の位を贈られた。

初め墓地の相を占うのが上手な人がいた。その者が言うのには、祜の先祖の墓地は帝王の気がたちのぼっている。これは子孫が帝王になる瑞相であるが、もしこれを掘れば子孫は絶えてしまうだろうと。祜は時の王室に疑われるのを恐れ、遂に墓を掘ってしまった。占者はまた言った。帝王の気はなくなつたがそれでもまだ臂を折る三公がでるだろうと。祜は後で落馬して臂を折ってしまったが、仕えて三公の位にまで上った。しかし子がなかつたので、占い者の言葉通りに後は絶えてしまった。

祜は自然が好きで、山水を楽しみ、荊州にいたときに好季節毎に必ず硯山に行つて酒宴をし詩歌を詠み終日飽きないで楽しんだ。彼の没後、襄陽郡の人々は、彼が日頃遊び休んだ所に碑を立て廟を作り、四期毎に供え物をして祭つた。その碑を望み見る者は、彼の生前の恩恵を思い浮かべ、涙を流さない者はいなかつた。杜預はこの碑を堕涙碑と名づけた。荊州の人は彼を尊び、ために其の名「祜」の字を書いたり言つたりするのを避けた。(新釈漢文大系『蒙求』による)。